

平成 30 年度 第1回 環境・施設専門委員会 議事録

日時:平成 30 年9月 21 日(金曜日) 13:30 - 15:30

場所:文部科学省研究交流センター 2階 第1会議室

出席者:

【委員】藤原委員長(農研機構)、三好副委員長(筑波大)、柴原委員(防災研)、前田委員(筑波産学連携支援センター)、箕輪委員(産総研)、小山委員(気象研)、山浦委員(建築研)、田邊委員(国環研)、田口委員(つくば市)

【事務局】広瀬事務局長、金塚(記録)

【同席者】3名

以下、議事要旨

会議の冒頭、事務局より委員長交代及び新規委員を紹介した。

・委員長交代

吉原委員長の人事異動に伴い新たに藤原委員長が就任。就任の挨拶。

・新規委員

若林委員(高エネ研)、小山委員(気象研)、山浦委員(建築研)

渡邊委員(国環研)、田中委員(関東地方整備局)、田口委員(つくば市)

(1)各機関における施設維持管理の現状調査について

- ・ **資料1**に基づき、各機関から施設維持管理の現状について説明。追加、補足等の情報は以下の通り。

※()内は**資料1**記載 No.と Q 番号を示す。

- ・ (No.1 Q.2)対策を本部だけで行くと、細かい部分まで対応できないため、少額な改修等は、自前で各研究センター等の判断に任せて、ある程度自由度を持たせている。
- ・ (No.3 全般)今回の回答対象はつくば地区に限定したものである。
- ・ (No.3 Q.1)改修予算確保が厳しいため、小規模は毎年の予備費を使い、大規模は先延ばしということもある。
- ・ (No.3 Q.2)研究設備は毎年ヒアリングし状況把握に努めている。
- ・ (No.3 Q.3)ガス、水道管等が 40 年以上経過しているため、何とかしたいが調査するだけでも費用がかかるため毎年先送りになってしまっている。
- ・ (No.6 Q.1)工事実施にあたり、各研究機関の業務遂行と工事計画との調整がなかなかうまくいかない面がある。

- ・ (No.6 Q.4)改修に伴い利用者から機能追加等の要望もあり、利用者との調整が難しい。
- ・ (No.7 Q.2)施設整備費補助金は箱ものが予算化されやすいので建物は立つが、その後の維持管理ができないため、なるべく集約化して延床面積を小さくする必要がある。
- ・ (No.8 Q.1)システムにより現状把握を行い、計画を立てている。
- ・ (No.9 Q.4)つくば独自の問題だが、敷地内の植栽維持の予算も不足する。
- ・ (No.12 Q.1)昭和 49～59 年に整備された施設が多いため築 30 以上経過の老朽化対策時期が集中する。少子高齢化等の社会情勢変化に伴う市民ニーズの変化(例えばユニバーサルデザイン採用)、大規模災害対策、低炭素対策なども配慮し、適正な維持管理が必要となる。

(2)「施設・設備の老朽化対策及び維持管理等に関する調査」について

- ・ 事務局から**資料2、3、4**及び**前回の調査報告書**について説明。
 - ・ **前回の調査報告書**は、平成 24 年5月にまとめられたものである。当時は、施設の老朽化対策に加え、震災の影響もあり耐震化対策に関する項目が含まれている。
 - ・ 当時の調査を踏襲し、経年変化をみることも一案だが、前回から6年以上経過していることから、現状に沿った調査として調査項目を見直す方向で検討したものである。
 - ・ **資料2**は、「施設・設備の老朽化対策及び維持管理等に関する調査」の事務局案、**資料3**は、今年3月頃に委員の皆様から挙げていただいた調査項目、そして、**資料4**は、**資料3**の調査項目を元に事務局側で作成した調査票案である。(資料4の各設問を簡単に説明)
- ・ 調査に関して**資料2**と**資料4**について各委員の意見交換。
 - **資料2**の①～⑤に対しては特に意見なし。
 - **資料4**は以下の意見あり。
 - ・ Q1-1の老朽化対策の進捗率について
 - ・ 分子、分母のカウントの単位が各機関の解釈により様々ありそうなので値の出し方が難しい。
 - ・ (事務局)御指摘の点は事務局側でも同様の意見があったが、ざっくりでもよいので定量化するだけでも意味があるのではと考えた。そのため、どのような値とすると意味があるかという御意見も伺いたい。
 - ・ 設問の意味合いとしては、自機関が他機関と比べてどんな状況か(うちは進んでいるのか遅れているのか)を把握したい、ということだった。どのような機関がどのような観点で出した値かということが分かれば情報としては意味があるので、値の精度は大まかでもよく、基準も多少異なってもよいのではないかと。例えば改

修済みの判断は、5～6割程度でも改修できていれば当該設備は対応済みという扱いとするなど、ある程度の判断でもよいと思う。

- ・ 数年後までの計画に対する実績として考えてもよいかもしれない。例えば、その計画で予算化した分を分母にして、使ったお金を分子とするとベースが明確なので回答しやすいと思う。

但し、聞き方次第でお金の足りなさを聞きたいのか進捗状況なのか異なるかもしれないので、その点は留意が必要。

- ・ お金を視点とすると、施設をたくさんもっている機関などの場合、いくら予算が必要ですか？と聞くと、無限になって収集つかないことも懸念される。
- ・ (事務局)各機関にとって有用な情報とは何か、そもそも本設問自体必要なのか、といったことも問題提起したい。
- ・ 多数の施設を保有すると、調査自体が大変となるので、やはり調査前に、設問の意味を持たせることは重要だと思う。
- ・ 確かに数字の出し方は曖昧である。しかし、様々な機関の情報(数字)が見えると、自機関と比べて進んでみえるものに対し、それをきっかけに掘り下げて聞くことができる。分母の設定次第で見せ方も変わるので、どうやって設定したかなども分かれば、意味があるものとなる。そのため、基準を定めなくてもよいかもしれない。
- ・ 各機関で基準をそろえなくてよいのか。それとも各機関の考えに任せる、ということなのか。
- ・ (事務局)調査結果のまとめ方についても考えておく必要がある。
- ・ その他、全体について
 - ・ (事務局)自由回答だと結果集計が難しいこともあるので、できれば想定される選択肢を設けてはどうか。

→資料4については、以下の事項を含め検討のうえ、後日メール審議とする。

- ・ Q1-1の進捗率の考え方
- ・ 調査結果の集計を考慮し、選択肢式回答の設定

※資料4の審議継続に伴い、資料2⑤のスケジュールも一部見直し

(資料4の調査票 Fix は 10 月中旬より遅れる見込み)

以上

《配付資料》

- 資料1 「各機関における施設維持管理の現状調査について」調査票一式
- 資料2 「施設・設備の老朽化対策及び維持管理等に関する調査」について
- 資料3 老朽化対策調査の調査項目アイデアのヒアリング結果について
- 資料4 「施設・設備の老朽化対策及び維持管理等に関する調査」調査票案

《机上(参考)資料》

- 前回(平成 29 年 11 月 14 日開催)議事録案
- 筑協「環境・施設専門委員会」委員一覧
- 筑協「環境・施設専門委員会」運営要項、細則
- 筑協の各委員会におけるオープン化について
- 「各機関における施設維持管理の現状調査について」調査票(個別原稿)一式
- 前回調査報告書「平成 23 年度 施設の老朽化対策費及び耐震化対策等調査」